

名前からして景気がいいゴールドマン・サックス。掲載しきれなかった「最強ぶり」を少しご紹介しよう。

出張の待遇も最強

ゴールドマン・サックスでは国内でも海外でも出張は多い。飛行機利用でのビジネスクラス、新幹線のグリーン車利用は当たり前だが、利用するホテルも超一流だ。海外出張、例えばNYなら5番街の格式高いヒエールやプラザアテネに始まり、国内ならリッツカールトンクラスが当たり前。最高の仕事をするために最高の環境を用意するということわけだ。

面接人数も最強!?

夜頑張る人には夜食代も

まだまだあるゴールドマン・サックス最強伝説

激務で高収入社員が多

強さは14の経営理念の浸透にあり

こうしたゴールドマン・サックスの強さの理由については、一般的に指摘されることは、「徹底したチームワーク」、「厳しく崇高な経営理念の浸透」、「人事評価」などだ。これは米国本社のカルチャーでもあるという。

社ビジネスの核心を成すもの」で終わる。(詳細は囲み参照)

「でもそれって本来当たり前前のことだよ。ゴールドマン・サックスは日本の金融業の中に、世界のデファクトスタンダードを持ち込んだだけ。

例えば、ゴールドマン・サックスのOBで外資系企業転職希望者向けコーチングサービスを提供しているセルゲル・バシヤラ氏は今の自分の成功はGS時代に培った理念にあるという。

そして最後の人事評価。これは1人が18人から評価される360度評価が実施され、肩書きがほとんど部下からどう思われているかをきちんと評価されるのだという。こうした徹底した人間作りが、ゴールドマン・サックスの強さを揺らがさないものになっているのかもしれない。

持田さんが、トップ自らが仕事取ってくるのだって、そう。お金をたくさんもらっているんだから頑張るのは当たり前。当たり前を当たり前前までできるということが強さなのでは。

「ゴールドマン・サックスで得た最も大事なことは、『最優先すべきは顧客の利益』という理念。当たり前だけだかなかなかできない。その経営理念は全部で14。「最優先すべきは顧客の利益」から始まり、「高潔と誠実こそわが強さについて聞いた。

「ゴールドマン・サックスの強さは、アメリカ企業らしからぬ点。アメリカでも例外的な企業と認識したほうがいい。

日本の金融業界に世界標準を持ち込んだゴールドマン・サックス。日本の金融業界を変えざるを得ないか。

山崎養世氏 1958年生まれ。福岡市出身。東京大学経済学部卒業後、カリフォルニア大学ロスアンゼルス校(UCLA)経営学修士号(MBA)取得。大和証券を経て、米ゴールドマン・サックスに入社。本社マネージング・ディレクター、ゴールドマン・サックス投信株式会社代表取締役社長、本社パートナー、ゴールドマン・サックス・アセット・マネージメント・ジャパン・リミテッド社長を経た後、2002年独立。

例えば、生え抜き社員を大事にする。性別・民族に関係なく皆平等。チームのために汗をかくことのできる人間が評価されるのかね」

山崎氏は続ける。「でもそれって本来当たり前前のことだよ。ゴールドマン・サックスは日本の金融業の中に、世界のデファクトスタンダードを持ち込んだだけ。日本ではいろいろな悪いイメージで報道されることが多いけれど、理解できない。実力主義、顧客志向、立場が上になるほど仕事も行うとか、当たり前前のことでしょう。」

